

第2回

日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会会議録

令和3年（2021年）8月30日

日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会

第2回日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会

- 開催日時 令和3年(2021年)8月30日(月)
18時30分～20時30分
- 開催場所 日野市役所5階 504会議室
- 出席委員 梅澤秋久会長、箕輪潤子副会長、石田恒久委員、安田尚民委員、大神田信教委員、小宮広子委員、岩下優美子委員、坂田雅江委員、野田ますみ委員、麻野綾委員、田中裕之委員
- 事務局出席者 村田教育部長、谷川教育部参事、久保田学校課長、森谷学校課学務係長、清水学校課主任、西山学校課主任

傍聴者 なし

議事内容

【会長】

定刻となりましたので、第2回日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会を始めさせていただきます。本日の検討委員会は前回に引き続き、会長の梅澤が進行の任を務めてまいります。委員各位におかれましては、円滑な会議進行にご協力いただきますよう宜しくお願い致します。

事務局、今日は傍聴のほうは？

【事務局】

現時点でございません。

【会長】

それでは検討委員会開始にあたり、事務局より説明があればお願いしたいと思います。

【事務局】

まず初めに、本日は委員全員ご出席ということで本会議は有効に成立しておりますことをご報告致します。また、本日は私立幼稚園協会代表者の田中委員がオンラインでの参加となります。以上となります。

【会長】

ありがとうございました。それでは次第に基づきまして、本日も市立幼稚園の適正配置について検討を進めてまいりたいと思います。前回に引き続き、委員各位の様々な立場からご意見やご質問などを頂ければと思いますが、まず初めに前回 A 委員がご欠席でしたので、改めまして所属とお名前を自己紹介頂き、所属される園の様子など、一言ございましたらご発言頂けますでしょうか。

【委員】

～委員自己紹介～

【会長】

ありがとうございました。では次に第 2 回目の進め方についてですが、この検討委員会の諮問事項は、市立幼稚園の適正配置についてとなっております。第 1 回目は主に幼児教育の在り方、市立幼稚園の今後などにつき、具体的には公立幼稚園の役割や機能、特に幼保小連携や特別支援教育などのテーマにおいて、各委員よりご発言頂きました。本日は A 委員ご出席ですので、引き続き私立幼稚園の在園児数や経営面における現状や課題、幼児教育の方向性、市立幼稚園に求められる事などをご発言頂き、その後前回事務局配布の資料に基づき、幼児人口の減少や在園児数などの視点に立った検討を進めていきたいと思っています。委員の皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

～異議なし～

それでは前回から一か月経過しましたので、事務局より簡単に資料のポイントを振り返ってもらい、本日の配布資料につき、説明があればお願いしたいと思います。事務局宜しくお願い致します。

【事務局】

宜しくお願い致します。前回から一か月の時間が経ちましたので、前回の資料のおさらいをさせて頂いた上で、基本的な検討事項についてご説明し、ご発言頂きたいと思います。宜しくお願い致します。

まず前回の資料 6 でございます。皆様お持ちでしょうか。こちらの資料では、前回日野市の人口シート未就学児学齢期の人口統計をお示しした内容でございます。この人口推計等につきまして、委員各位よりより議論を深めて頂くために、本日改めまして、資料 6 の更新版をご用意いたしました。本日配布資料の 2 をご覧いただきたいと思います。前回とほぼ同様の資料となりますが、上段の表 1 左側に星印のマークが 3 カ所ほど付いておりますけれども、新たに幼児人口とその下人口に占める幼児人口の割合、さらに公立幼稚園の園児数を追記させて頂きました。前回配布の資料 6 市立幼稚園統合計画でご説明した通り、幼児

人口は昭和 50 年の 16,781 人をピークに減少に転じており、平成 9 年にはピーク時の半数のおよそ 8,000 人台に減少しているということでご説明をさせていただきました。この状況をご確認いただける内容の資料として、改めて配布させて頂いたものとなります。その下表の 2 になります。こちらについては時点修正をかけた内容となりますので、人数の変更が生じておりますけれども、空のグラフを含めて前回と見方は変わっておりません。その旨、ご承知おき頂ければと思います。

前回の資料 7 をご覧ください。カラー刷りの図面の資料について、市内幼稚園における数と配置をご確認いただきました。前回の検討委員会における 3 年前、平成 30 年度になりますが、こちらの時点の 4 歳児と今後 3、4 年後に幼稚園の入学が見込まれる将来世代の 0 歳児の人口について現時点において比較をし、中学校ブロック単位で比較したものとなっております。矢印内はその増減率と人数比をお示しさせていただきました。各園が 13 園地図の中に落ちていますが、各地域における人口動静につきご確認を改めて頂きたいと思っております。続きましてこちらも前回の資料となります資料番号 8 をご覧ください。公立幼稚園における年度別園児数など経年的にまとめた表となっております。過去 5 年間分をお示しいたしました。各年度最下段の網掛け箇所、全市立幼稚園の人数統計をそれぞれご覧ください。表の中ほどにございます、令和元年度に園児数が 196 名となっておりますが、この令和元年度は転換期となりまして令和 2 年度以降在園児数よりも欠員数の多い現状となっております。また、令和元年度より園児数が各年 50 名ずつ激減し、令和 3 年度におきましては、園児数が 100 名を切るという現状を合わせてご確認いただければと思います。

続きまして資料 10、こちらも前回の資料となります。市立幼稚園、それから私立幼稚園、保育園等の入園状況を令和 3 年度を含めまして 6 ヶ年分お示ししました内容となります。幼児人口の減少とともに公立、私立共に在園者数は減り、欠員数が増えている状況をご確認いただきました。なお、保育園等につきましては在籍者数、待機児童数は保育志向の高まりにより、ご覧の人数推移となっております。この点につきまして、後ほど A 委員より私立幼稚園の実態や経営面で努力されていることなどをご発言頂ければと考えております。

それでは本日配布の資料に移らせて頂きます。こちらの冊子状の「知っとくハンドブック」になります。こちら「知っとくハンドブック」につきましては、日野市で安心して楽しみながら子育てをするために日野市の子育て情報を集約致しまして、一冊の本にまとめた内容となっております。第 1 回の検討委員会におきまして、日野市における今後の幼児教育の在り方などにつき、深い議論を頂いたところです。現時点における日野市の子育てサービスの参考として配布をさせて頂きました。付箋をお付けしました、47 ページから 50 ページまでが幼稚園に係る記載事項となっております。

続きまして資料 2 につきましては、先程ご説明しました通りでございます。

最後に資料 3 となります。こちらについては、前回の第 1 回目の検討委員会の議事録となります。前回の論点の振り返りなどにご活用いただければと思います。

【会長】

ありがとうございました。それでは A 委員、事務局より説明がありました資料なども含めて、私立幼稚園の現状などご発言があればお願いしたいと思います。

【委員】

私立幼稚園ですが、幼稚園の教育要領等の全国的な基準はあるものの、小学校と比較すると、教科書等が幼稚園はあるわけではありませんので、各園によって独自性、多様性に富んだ自由度の高い教育課程を編成できます。それぞれの私立幼稚園の建学の精神に基づいた、特色ある保育を各園で実施している状況だと思います。先程の資料 10 にありましたように、園児数は毎年減っていますので、経営面としては、当然収入減により苦しくはなっています。公費の投入はもちろんありませんので、借金をしたり、あるいは経営者の私財を投入したりということでも維持しているところも出てきています。

努力としては、私立幼稚園一つ一つ違いますので、この辺を入園する方にわかっていただいて、選択しやすい状況で、「こんな園じゃなかった」ということが無いような形にするようにお知らせをしている状況ではあります。今特に、コロナ禍でお父さんの収入が減って、お母さんが働きに出る方が増えていて、今までにはなかった、下のお子さんが保育園に行くという方が増えてきました。これによって、預かり保育を強化しているという面は私立幼稚園の場合もあります。今まで当園でも夏休みなどはやっていなかったのですが、そちらを始めたり、あるいは早朝もお仕事という方の為に早く始めたり、そういうことはうちに限らずどこでも始めているのではないかと思います。この辺も、私立幼稚園で全部比較しているわけではありませんので、他園の詳しいことははっきりとはわかりません。そのために私の園のお話を中心になってしまいますが、今のところはそのような形で努力しているところです。

【会長】

今、A 委員のご発言がございましたが、各委員の方から私立幼稚園の実態について改めてもう少し聞いてみたいところがあればご質問頂きたいと思います。いかがでしょうか。皆さんが考えている間に司会の方から恐縮ですが、資料 10 の私立幼稚園を見ますと令和 3 年度で、在籍者数が 1,664 名、欠員数が半分かりの 848 名という資料がございます。A 委員のところは、どのくらいの欠員があるのでしょうか？

【委員】

昨年よりも 20 人くらい減っている状況です。さらに来年もまた減っていきます。

【会長】

という状況だという事ですね。やはり定員を満たすことができないことが、かなり経営に

影響を与えるものなのでしょうか。

【委員】

そうですね。基本的には頂く保育料が収入の主なものになりますので、そこが減れば、例えば一クラスの人数が数名減ったからといって、職員の数、先生の手数は減らせませんので、人件費の占める割合が一番大きいですが、この辺が支出として減らせない部分ではありますね。

【会長】

ありがとうございます。委員の皆様いかがでしょうか。何かご質問があれば。

【委員】

宜しくお願ひ致します。今 A 委員のお話をお伺ひして、なかなか公立の幼稚園と私立幼稚園さんの接点が無いものですから、貴重な話を伺えることは大変ありがたいと思っております。経営面の厳しさをお伝えして頂き、その中で自園のご努力で預かり保育、早朝保育というものを直ぐに実践できるというところは、やはり私立幼稚園ならではのと言いますか、なかなか公立幼稚園では直ぐに実践が正直難しいところで、話を伺っていて大変うらやましく思いました。ありがとうございます。

【委員】

宜しくお願ひ致します。前回の話し合いの時に、公立の幼稚園の役割として近隣の公立小学校との連携の中で子供の六年間、三年間だけではない連続的な発達を支えられるというお話があり、ぜひ私立幼稚園の取り組みや、小学校との連携のことを伺いたいと考えておりました。例えば第八小学校の場合ですと、日野わかさ幼稚園があつて、現状公立幼稚園よりもそちらの卒園児の方が小学校に入ってくる人数が非常に多かったということもありますが、積極的な交流を、第五幼稚園と同じような形で繋げていく、一校と二園の連携というような形で続けてきたのですが、A 委員のところの幼稚園の、小学校との連携や取り組みについて、教えて頂けることがあればご紹介ください。

【委員】

ご存じのようにコロナ禍の為に、昨年度は全くありませんでした。今までは、年長さん、5歳児が小学校入学の為に見学に行かせて頂いて、体験の授業をさせてもらったり、各幼稚園にはない理科室や特別室を見せて頂いたりしてました。幼小連携がだいぶ強くということもあると思いますが、今までは近隣の五小だけだったのですが、数年前から七小さんからもお話があり、二校に見学に行かせてもらっていたというのがコロナの前までの状態です。ご存じのように、小学校 1 年生の担任と私どもの園の年長の学年の担任と情報交換は

毎年行っております。数年前には、八小が以前やっていたと聞いたような気がするのですが、幼稚園の年長さんが給食の試食をさせて頂いているとお聞きして、近隣とかなり具体化したのですが、アレルギーの問題が出てきて、ちょっとそこまで対応できない、何かあったらいけないのでということで、開始一歩手前で中止になってしまったことはあります。それと、小学校一年生の先生が幼稚園の保育を見に来るといってお話もあったのですが、これもなかなか忙しいのもあり、コロナの前にもインフルエンザが蔓延すると、どちらも行かないほうが良いという形になって、取りやめになった。そんな感じなので、このところはあまり幼少連携というのはできていない状況ではあります。

【会長】

ありがとうございます。関連してあれば。

【委員】

宜しくお願い致します。私の子供は私立幼稚園の〇〇幼稚園でしたので、目の前が〇〇小なので小学校との交流は〇〇小さんとやらせて頂いていたと思います。徒歩通園の人は〇〇小に入る感じでした。バス通園していたため、目の前の小学校ではないところに入学しました。就学時検診の時に時間帯によっては幼稚園午前中あります、そこから就学時検診です、ということもあって、行ける時には園のバスが園から小学校へ送ってくれる、親は学校の門で待っていてください、制服を着たまま就学時検診に行く、こともありました。子供たちは〇〇小ですが、目の前に〇〇保育園がありまして、近くの幼稚園は今はないので、保育園との連携はしていて、体験に来てくれる保育園児を一年生や二年生がお世話することをしていきます。五幼があった時には中学校の方で、小学校、中学校、五幼の園児たちと交流を持つということもやっていました。私立幼稚園でも保育園でも、小学校との連携活動はできないことではないと思います。

私立幼稚園は加配がつかないんですね。知人の子はじっとしてられないということで、上にも兄弟がいたので、その子は〇〇幼稚園に入っています。支援の必要な子を同じ幼稚園に預けたいという親御さんの要望に対して、お母さん、何時でも園が困ったら来てくれますか？ということで、年少の時はほぼ毎日小さい園児椅子に座ってその上にお子さんを乗せて、ずっとお母さんが幼稚園にいる状態でした。年次が上がって、年中になったら少しずつ離れていても平気になって、園での学年ごとの行事や、外に劇を見に行くときは必ずほかの園児は集団指示が通るが、その子は無理なので、その時にはお母さんが付き添うような形で、やっていた。上に上がれば集団指示はほぼ通るようになってお母さんとしてもほっとしたと思います。皆で園庭で遊ぶというクラスがあったとして、外に行きたくないという子もいる。僕は絵本を読んでいたい。けど、先生が見えないところで園児を一人にするわけにはいかないなので、そういう時には事務室で大人がいるところで、教室は無理だけど、事務室にいてね。ということで無理に皆と外で遊ばなくてもいいよ。という対応をしていた。加配

がつく、つかないというのが大きいことなのかなと思っていて、数字の説明の流れを見ると恐らく財政的にも厳しいので、公立幼稚園の役目は補完的なものであったがゆえに、役割を終えたのではないかというように聞こえるんですね。今まで培ってきた、支援の必要な子に対するノウハウや、公立ならではの培ってきたものを活かす方向がシステムとして構築できるか、今いる在園児の皆さん達がどうなるかがわからないとこの先どう話を進めればいいのかが見えないと思っています。

【会長】

事務局も答えを持っているわけではないと思います。この議論の中でより良い最適解を作り上げられたらいいのではないかなと思っています。今は数字が根拠として無くてはならないかなと思いますが、今仰っていただいたように公立の良さや私立の可能性などを含めて皆さんで議論させて頂きながら、より良い方法・攻略・着地点を見い出せたらいいのかなと思っています。加配が付く、付かないとのお話が出ましたが、A委員のところはいかがでしょう？特別に配慮が必要なお子さんたちをどの程度受け入れているのか、それこそ受け入れているとしたならばそこに対する先生の加配についてなど教えて頂けますでしょうか。

【委員】

完全に加配が付かなくてはならない場合は、私立では難しいんですね。発達障害の子たちの補助金も出ますが、僅かで、とても一人雇う金額は出ません。どうしても一人必要な場合は、お断りをする場合もありますが、エールや他の療育の施設へ行って連携を取ったりして、できるだけ早期に支援を受けることで成長を支援することができますから、今のところ行っている形です。どうしても、加配の職員の給与面の負担が難しいので、私立の園長がだいたい思っていることだと思いますが、これは公立幼稚園さんの方で加配が付けられるならば、この辺を手厚くやって頂けると将来小学校に上がった時の為にもとても良いことではないのかなと思います。そして、エールはとてもいいのですが、今はもう入れなくて待ちがたくさんいるんです。それが早く多くの人数を引き受けてくれればどれだけ子供たちにとってもいいかと思えますし、教育の日野市としても良いのではないかと思えます。

他の市の園長先生から羨ましがられるのは、日野市の場合は保育カウンセラーの派遣があるという事です。これは他の市ではありませんので、第三者なら臨床心理士さんに来ていただいて、色んなことを先生たちに助言して頂ける、あるいはお母さんたちにも第三者的な立場でお話をさせて頂いて、これはとても助かっています。これによって、教育のことも職員もだいぶ実践的にできますし、非常によくなっています。そういうことがあったとしても財政面がとても大きいです。

【会長】

ありがとうございます。事務局に伺いますが、保育カウンセラーの所属はどこになります

か。

【事務局】

特に所属は要件となっていません。臨床心理士の先生となります。

【会長】

どこかに所属しているわけではないということですね。なかなかない先進的な取り組みだと思います。A委員の話の中で少し気になったのが、エールがかなりいっぱいであるということですが、どれくらいの受け入れが可能で、どれくらいの時期からいっぱいなのかを教えてください。

【事務局】

細かな資料は手元にないのですが、ピーク時には年間で150人から200人で、エールでは成長を支える記録として「かしの木シート」個別の支援計画を作っているのですが、利用者は延べ人数で2000人から3000人ということで、かなりの受け入れ数であります。また、エールに来られますと、発達の成長の様子を伺うために発達検査なども行っております。一時は2ヶ月待ちなどの期間もありましたけども、最近のご予定が合えば数週間と伺っています。エールでは、未就学児が通園する「きぼう」という事業がございますけども、1クラス7名の4、5歳児クラスや3歳児クラスがございます。日野市における特徴の一つとして、幼稚園、保育園の現場サイドのスキルやノウハウが積み重なり、対応ができる園が増えており、エールに通う通園時もピーク時よりも少なくなっていると伺っています。概略としては以上です。

【会長】

ありがとうございます。話の流れとして、個別に支援が必要なお子さんの受け皿として、公立の幼稚園の意義というのは浮彫になってきたというところではありますね。保護者の立場で気になるところがありましたら、ご発言いただければと思います。

【委員】

前回、公立幼稚園の良さをアピールしていくにはどうしたらいいかという話になりましたが、広報が8月からリニューアルされて見やすくなり、一般市民としてありがたいです。子育てのところが凄いい見やすくなって、明るくなってここから子供達の情報なんだとわかるようになりました。公立幼稚園からのお知らせで「おいでよ」「ぶちっこ」の情報が出たときにQRコードが載っていて、調べると3園のホームページに飛ぶことができ、今まではなかったのですが、すぐに3園のホームページを拝見することができて、より多くの保護者が公立幼稚園の良さを知っていただけたと思います。一保護者として、毎月の園だよ

りがとても楽しみで、前回 B 委員が「おいでよ」に来た保護者に渡しているとおっしゃっていましたが、「おいでよ」に来る保護者はすでに公立幼稚園に行くか迷っていると思うので、より多くの保護者に公立の良さを知ってもらうには、来てない人が公立に興味を持っていただけたらと思います。ホームページに園だよりを載せていただいたり、別の QR コードが可能であればと思うし、小学校の「home&school」のようなことができたり、3 園の園だよりが見られたら他のお母さん方も興味を持って、公立と私立の比較ができたり、選択肢が広がると思います。

【会長】

資料をお持ちいただきましてありがとうございます。

【委員】

先程 A 委員のお話を聞きまして、私立幼稚園では特別配慮が必要な子に加配を付けることは難しいという話を受けまして、公立幼稚園の意義として特別支援教育、配慮が必要な子を見ていける環境がある、役割があるということを実感しました。うちの息子は、エールの「きぼう」という児童発達支援事業にも通いまして、〇〇幼稚園に通い、その後小学校に入って〇〇学級という支援学級に行きました。そこで学習が難しいということで特別支援学校に転校しまして、今特別支援学校にいる息子がいますが、様々な息子が通った施設を見て、誤解を恐れずに言いますと、インクルーシブ教育が本当にされていたのは親の実感でいうと〇〇幼稚園だったと思います。なぜかという、小学校で支援級に行きましたけども、小学校自体は同じ小学校なんですけども、〇〇学級という名前がついて、分けたところに行くと、子どもは大人がすることに敏感ですので、分けられているところに行っている〇〇学級の〇〇君という形になります。ただ、幼稚園の時は〇〇組の〇〇君という隔たりは感じなくて、幼稚園で息子のことを知っているお友達は抵抗なく「〇〇君」で小学校で会った時も声をかけてくれて、小学校で新しくあったお友達はちょっと一歩引いた様な状態で見たりとかそういうことがあったので、やっぱり幼稚園で一緒に学べたってことが息子にとっても親にとってもありがたい環境でありました。そういったことを考えると、公立幼稚園はもっとインクルーシブ教育をやっているんだということを打ち出していいのではないかなと思います。ホームページの話が出ましたが、検索エンジンで「インクルーシブ教育」「幼稚園」で検索したときに、日野市の公立幼稚園が上のほうに来たらより良いんじゃないかなと思ったので、市外に住んでいても、インクルーシブ教育を幼稚園で実現しているところないかなと探したときに、パソコン・スマホで検索して上位に出てくるような仕組みを作ったりすると、市外の人で引っ越しのきっかけにエールとセットで公立幼稚園が出てくると、選んで引っ越してくる人も増えるのかなと期待したので、インクルーシブ教育を幼稚園で実現しているところを打ち出していいのではないかと思いました。

【会長】

ありがとうございます。今開かれているパラリンピックを見て多くの人が、障害をお持ちの方の頑張りを目の当たりにしているのかなと思いますが、そういった時に、ただ特別支援教育をするのではなく、一緒に生きるのが当然だということで、小さい時から実体験で感じられる園というのは素敵だなと思いながら話を伺っていました。「Society5.0」の話があり、新しい社会は創造社会であると同時に、共生社会を同時追及しなきゃいけない世の中で、小さいうちから、色んなお子さんがいて当然ということを目の当たりにできるのは、支援が必要な子供と一緒に過ごしていた子供達も良い教育を受けていたのかなと思いながら話を伺いました。

【委員】

2つほどお話しできればと思うんですけども、共生という話で共に生きていくということで、私が何年前に見ていた足の不自由な子なんですけども、他の子達に助けられながら、またお互いを感じながら6年間共に過ごして卒業して行って、中学校の体育祭を見学させていただいた際も、周りの友達に声をかけてもらいながら、その子も自分からというところもあってお互いに歩いていっているんだという姿を見ることができたので、小学校だけではなく、幼稚園から引き続きということも大切なんだなということを知っていて思っていたところです。

2つ目なんですけども、先程幼小の連携の話で一小でも隣に三幼があった頃なんですけども、学校に招いて給食の交流をさせていただいたことがあります。その時に、アレルギーのことで悩みまして、幼稚園の先生と6年の担任で事前に打ち合わせをして、栄養士にもご協力願って、事前に洗い出しをして、交流するときのメニュー、献立を変更することも含めて取り組んだということがありました。ですので、アレルギーひとつとってできないではなく、しっかりコミュニケーションを取りながらやっていると、交流・連携という点でいいのかなというのがあります。また、私立幼稚園さんとの交流ということもあるんですけども、本校小学3年生で仕事体験ということに取り組んでいた時期があります。今はコロナ禍でなかなかできないんですけど、私立幼稚園にもできる範囲で体験をさせていただくことができました。その時も子供たちはお互いに目を輝かせながら、大きいお兄ちゃんが来てというところ、小学生のほうは小さい子とふれあうということ、これも一ついいことだと思いますので、教育的効果もあると思いますので、良かったのかなと思います。その時も先生方との事前の打ち合わせが凄く大切になってきまして、何回も打ち合わせをして交流していくということをしていました。本日この会もあり、始業式ということで、三幼と最後に交流した学年の子が6年生で、先生たちのこと覚えてるか聞いたら、もちろん覚えていると、こういうことやった、給食を食べたということ話をしてくれるということは、小学校と幼稚園保育園含めて交流するというは下のお子さんの記憶にも残っていますので、とても大切なんだなと思います。これは公立私立関係なく教員のほうが事前に準備しながら手立てを打っ

ていけば、交流ができて、子ども達の成長につながるのかなと感じたところです。

【会長】

ありがとうございます。何か問題があるからできないではなく、どうやればできるかを考えて進んでいるという話を、具体例をいくつか挙げていただきました。日野流だなと思いつながら伺っていましたが、前向きに、先生方の交流を軸に子どもたちがその先に交流していくという部分は重要なのかなと思います。

【委員】

幼稚園で加配のある子も同じ教室で普通に生活していると、垣根がまるでなくて、小学校に入っても、「今日〇〇ちゃんに久しぶりに会えたんだ」「久々に話せてさ」みたいなのが普通にできる環境というのは、〇〇幼稚園で培った生活力というか、成長かなと感じました。お兄ちゃんは私立の幼稚園に通っていて、そこでも幼小の連携というか、近くの小学校にバスで行って小学校のお兄さんお姉さんと遊ばせてもらうということはあったんですけども、数は少なく、記憶に残っているかわからないところがありました。小学校に行くってすごく特別だと思うので、下の娘が〇〇幼稚園に通っていた時、今2年生なのでちょうどコロナが始まった頃に年長だったので、給食の体験もできず、もっといろんな体験ができたのという悔しさが残っていて未だに話しているので、すごくステップアップするのに大事な体験なんじゃないかなと思いました。

【委員】

先程のA委員の話も含めてなんですけども、互恵関係って私たちが環境を作っていないと、まだ駄目なんだろうと。かつて私立の保育園の会長さんから校長会が声をかけられて、一回顔合わせの会をやりたいということでセッティングしたことがあるんですけど、そこで近隣の校長と近隣の園長先生が顔を合わせることで、その後の幼保小連携教育推進委員会の時の私立保育園の先生の参加が少し増えた。そして公立幼保園の教員と保育士と市立小学校の先生達が今幼保小連携を進めているんですけども、いろんな課題に対応する私立の幼稚園の先生はなかなかお会いする機会がなく、それが残念だなと思いつながら、私立の幼稚園同士でもなかなか情報交換できないなかで、もし今後幼児教育を充実させていくことを目的とした時には、私立でも公立でもなく、一堂に会して一律一斉保育なのか、自由保育なのか、その割合はどうなのか、どんな子供を育てるか、というのを保育園と幼稚園と小学校が共有して日野の子ども達をイメージすることができるならば、それぞれの役割が明確になってくるんじゃないかと感じたところです。特にエールと「きぼう」を含めて特別支援と幼児教育っていうのはものすごい親和性があるっていうふうに本にも書いてあって、一人ひとりをしっかりみるということが共通しているわけですから、そういう意味で大きな財産を日野は持っているわけなので、保育カウンセラー含めて。それを活かしながら、か

しのきシートを活かしながら、それぞれの園の持っている特徴を活かしながら幼児教育を高めていくことができるならば、これから先子ども達がどこで学んでも、かつて市立幼稚園の園長先生達はどこで学んでも幼児教育が十分充実するように毎年研究されていて、保育カウンセラーのほうにも繋いでくださったっていうのが歴史としてあるので、その財産をこれから先活かして行ってほしいなと思っているところです。私立幼稚園、公立幼稚園、私立保育園、公立保育園、小学校が今後も連携ができるように一つの組織になってくれるといいなと感じたところです。

【会長】

ありがとうございます。幼児教育全体について、幼保小の連携、公立も私立も含めてということでご発言いただいたかと思います。

【副会長】

A 委員にお伺いします。先程、特別支援が必要なお子さんに関して、加配の分の補助が出ないというところで受け入れはなかなか難しいというお話があったんですけども、補助がつけば、私立幼稚園でも受け入れが進んでいくとお考えなのか、それとも私立幼稚園というよりは、エールなどで受け入れをと私立幼稚園の先生方はお考えなのかというところをお聞きしたいのと、もう一点、先程一緒に私立幼稚園の連携という話が委員の中から出てきましたが、私立幼稚園協会の中で、私立幼稚園同士で質を高めていく努力をどのようにしているかをお聞かせ願えればと思います。

【委員】

先程、「どこの幼稚園に行っても」というお話があったんですけども、それでは私立の個性が出せないと私は思っていて、一つ一つ違うところに私立の良さがあるので、連携は必要だと思いますけど、どこの幼稚園に行っても同じ保育というのは非常に難しいのではないかと思います。補助金が出れば加配が付けられるのかということですが、広さの問題もありますので、無制限には難しいと思います。その子の成長にとって良い環境でなければならぬ気がします。その辺は良く保護者と話し合っという形になると思います。受け入れについてはケースバイケースになるので一言では言えない気がします。幼稚園同士の研修、先生方の能力育成の場は、毎年幼稚園協会として2回保育の技術の研修を行っています。ただ、今はコロナ禍の為にオンラインになっていますけども、各園でも様々な研修を行っていると思います。

【副会長】

支援が必要なお子さんに対して、今よりは受け入れをしていきたいという園が増えそうですか？例えば、補助の問題が解決されれば、その教育的な意義や様々な人と一緒に生きて

いく共生社会というところを目指していくという考え方において、私立でも受け入れていきたいという幼稚園は考えますか。

【委員】

今でもエールに通いながら通園している子供は何人かいます。加配が常に付かないといけない場合は難しいです。発達障害の子は受け入れられないのではなく、様子を見させていたでいて、特に急に外に飛び出してしまうなど、大人の目が行き届かない場合は非常に難しいです。お話を聞いて、極力お預かりしていますが。加配の補助が出るようになればだいぶ対応も変わってくるんじゃないかと思います。毎年、発達障害の子、アレルギーの子は増えていきますので、その辺の対応は必要じゃないかと思います。

【会長】

話し合いの中で、少しずつ幼児教育の充実に向けた方向性が見え隠れし始めたかなと思ひまして、私立は経営をベースに考えるという意見が出たかと思ひます。一方で、公立ゆえの良さ、手厚さ、加配に対するメリット、意義、それもただ加配があるではなく、その裏には本質的な、共生社会を生きる上で多様性を認め合う人間性を育成できる場であるという意義が語られたかなと思ひます。

先程、資料の確認がありましたけども、園児が減っていることについては、目を背けるわけにはいかない現状があるのも事実かと思ひます。本日の資料 2 について改めて追記をいただき、幼児人口の割合の減少、右下のグラフが令和 3 年 8 月 1 日時点が追記されたことと思ひますが、さらに減っている状況。これらを踏まえて、どのように今後の市立幼稚園の在り方を検討していくのかというところが論点になるのかなと思ひます。私立の経営の話がありましたが、市にも財政というものがあるかと思ひますので、その辺の事務局から説明があればお願いします。

【事務局】

今私立の経営的な課題があると伺いました。また、第 1 回の際には、奈良県生駒市の情報提供などもありましたが、公立幼稚園の経営の在り方、実際の成功例失敗例などいろいろと各自治体が抱えているところがあります。また前回の資料 9 で都の公立幼稚園設置状況についても、各公立幼稚園の置かれている状況を実情としてお話をさせていただいたところでした。第 3 回の資料案として財政状況なども含めて日野市の実情をご説明したいと考えておりましたが、もし今回必要であれば、資料を前出しさせていただきまして、ご説明させていただきたいと思ひますがいかがでしょうか？

【会長】

委員の皆様いかがでしょうか。追加の資料を出していただいてもよろしいでしょうか。

～異議なし～

ではお願いします。

確認ですが、幼児教育にちゃんと公費で支援をすべき、それは間違いのないところだという前提でこの資料をお読みいただければと思います。それではこの資料の説明を事務局にお願いします。

【事務局】

今お配りしました資料に基づいて説明させていただきます。お配りしました資料はA3横長の物が一点、ホチキス止めされていますA4横長の物が一点となります。先に資料番号が振られています資料1-1、A4横長の資料について説明させていただきます。重複になりますが、私立幼稚園から経営面のお話が出ましたが、当然ながら公立幼稚園は日野市が経営母体となります。従いまして、同等の話をさせていただくにあたり、日野市の財政状況や施設面の課題などについて触れさせていただきます。

資料1-1をご覧ください。日野市では、令和2年3月、財政非常事態宣言を発出いたしました。これは図1にも記載がございますとおり、収入と支出のバランスが大きく崩れたことが主たる原因と考えております。発令した経過として、市の歳入予算の根幹となる市税は伸び悩む中、法人市民税の一部が国税化され、地方消費税交付金の見直しやふるさと納税による流出などによる収入減がおり、一方、少子高齢化、この検討委員会のテーマに近い事項で申し上げますと、保育園の運営費などによる社会保障関連経費の急激な伸びなどにより財政支出が大幅に増大したことなどがあげられます。

図2をご覧ください。日野市はこれまで3回の財政非常事態宣言を発出しております。第1回は平成10年、第2回は平成20年です。いずれもバブル崩壊やリーマンショックなどの経済危機といった外的要因により、財政危機に陥ったものです。他方、3回目となる今回の宣言は、収支構造の著しいバランスの変化による内的要因を理由とした発出となります。現在、令和3年3月に策定されました「財政再建方針」等により、財政の立て直しを図っていくところです。

この検討委員会は、財政の改善に向けた取り組みなどを議論する会ではございませんので、「(2)日野市における財政状況」など詳細につきましては、後ほどご覧いただければと思います。資料右下、グラフ1にありますとおり、財源不足が多発に発生しており、財政再建が必要である現状という視点をここではご確認いただければと思います。

続きまして、資料1-2をご覧ください。この資料は平成8年からはじまります「行財政改革」につき時系列でお示したものです。行財政改革とは、厳しい財政状況や地域経済の状況等を背景に、効率的な行財政システムを構築するとともに、自らの行財政運営について

透明性を高め、公共サービスの質の維持向上を図るしくみです。日野市では令和3年度より「第6次」の行財政改革がスタートしておりますが、資料下段の★印「行財政改革の視点」にありますとおり、これまでの行財政改革の各段階において、行財政改革の中に公立幼稚園の統廃合が位置づけられ、市立幼稚園の統廃合を実施してまいりました。前回、公立幼稚園は、設立当時、入園を希望する子どもたちの受け皿としての意味合いとして、私立幼稚園の補完的役割といった歴史的な設置経過がある中で、幼児人口の減少とともに統廃合を行ってきた経過をご説明しました。

行財政改革の視点の○2点目にございます、「子ども人口の動向や民間保育園の定員割れを考慮した公立幼稚園の統合・適正配置」等と記載がありますとおり、私立幼稚園の補完的役割については、こうした行財政改革にも位置づけられた中でこれまで実施されてきたものであることをご確認ください。なお、各段階での行財政改革の欄には、主な改革の成果の記載がございますが、こちらの資料では、子育てや教育分野の事項を抜粋の上、まとめたものとなっています。これまで、持続可能な財政運営などの観点から、子育て・教育それぞれの分野においても、その時代に求められる改革を実行してきたという経過でございます。

続きまして、資料1-3、上段、(6)第6次行財政改革大綱をご覧ください。四角い枠組みの中にあります★印「財政再建・行財政改革の取り組みに向けた方向性」でございます。②歳入確保・歳出抑制の二点目に、「公立保育園や学童クラブにおける民間活力の導入」と記載があります。今後、子育て施設についても、公立幼稚園と同様の議論がなされていく予定でございます。

最後に、公共施設等総合管理計画でございます。こちらは(1)に記載がございますとおり、今後30年という長期的な視点で、公共施設等全体を適正に管理していくための計画となります。(2)対象となる施設をご覧ください。幼稚園や学校といった学校教育施設は築30年以上経過している建物が、面積割合で80%を超えております。この中において、公立幼稚園においても築年数がすべて30年を超えており、第二幼稚園が36年、第四幼稚園が48年、第七幼稚園が36年となっております。さらに第二、第四幼稚園においては、洪水ハザードマップにおいて「浸水想定区域」に位置づけられている点もございます。こうした施設面での課題も含め俯瞰的な視点により市立幼稚園の適正配置につきご検討いただければと考えております。その下、★印公共施設等の管理に関する基本方針がございますとおり、公共施設等を適正に管理していく上ではいくつかの対策が必要となってきます。この中で③において公共施設の総量縮減目標が設定されており、維持費の不足額相当分を勘案して延床面積で全体の16%を減じる必要があるとの試算となり、老朽化施設への対応が必然的に検討の対象となってまいります

最後に資料2、事業別コスト計算書をご覧ください。事業コストとは、資料表題下にありますとおり、「市民に身近な行政サービスの提供について、1年間のコストと、それがどのような収入で賄われたか、また利用者一人あたりの単位コストはいくらになるのかなどを明らかにするもの」となっております。この資料は市の予算にかかる公立幼稚園のコストを

左側に、私立幼稚園のコストを右側にお示ししたものです。公立と私立は児童数が異なるため、①の総コストや②収入、特に保育料などにつき単純比較はできませんが、概ねのコストにつき、事業運営にかかる経費など比較検討をおこなうことができます。左側、公立幼稚園の収入です。令和元年10月の幼児教育無償化や受け入れる児童数の減少を理由として、2. 在園児一人あたりのコストにつき、変化が生じております。他方、右側、私立幼稚園の収入と支出については、市からの助成制度として就園奨励費等があり、公立同様、幼児教育無償化の影響により総コストへの変化が生じております。「市立幼稚園の適正配置」につき、このような公費負担のあり方においても、さきの財政状況と同様、検討要素として議論をいただければと考えております。

先程から厳しい話に尽きますが、園数を縮小する前提ではなく、第1回で皆様に議論いただいたように、公立だからこそ、特色のある仕組み、強みを活かしながら、実情を踏まえて俯瞰的にご検討いただければと考えています。事務局からは以上です。

【会長】

ありがとうございました。かなりきつい内容の資料だったかと思いますが、この資料について何かご質問等あればお話いただければと思います。

【委員】

先程の特別支援についてお話させていただきたいのですが、現状4月1日の状態で3園の合計数が95人の園児に対して、支援員の数が14名、14名で一対一対応ではなく、1/2対応、一人の支援員が二人のお子さんを見るということもあります。1/3対応ということもありますが、それだけ支援が必要なお子さん、配慮が必要なお子さんを預かっています。しかし、それを大変と思ったことはないです。もちろん配慮も必要ですが、一人ひとりが目を輝かせて遊び、友達と関わり、そこで自分に今必要な力を身に付けて小学校に上がっていく、その為に公立幼稚園は努力という言葉ではなく当たり前のこととして支援が必要なお子さんをお預かりしてきました。そして、4月以降も第四幼稚園ではエールから新たに入園がありまして、今日電話があったお子さんは来年度入園したいんですけども、加配ができますかというお電話でした。それだけ、情報として市立幼稚園の手厚さ、安心して預けられると思っただけに思っていたのと、お子さんだけでなく、その保護者に、他の子供達と一緒に過ごす中で子育てを楽しく、未来を明るく、他の子と同じような希望・楽しみを持って小学校に上がっていただきたいために、私たちは常に努力していることをお話させていただきます。

もう一点ですが、先程会長からお話がありましたけれども、コスト的なことを考えると大変厳しく私としては申し訳ない思いですが、ハード面、園舎自体は厳しいことはお伝えしたいと思います。第四幼稚園の現状です。変わらない園舎園庭があり伸び伸びとした自然に恵まれた園ではありますが、正面玄関は、すべて鉄骨の塗装が剥がれて、修繕してもらいま

たが、現状は屋根の塗装も剥がれ落ちている状況です。周りの新しく建った私立保育園を見ると羨ましい気持ちでいっぱいです。駐車場もあり、水道も夏はしばらく出していないと熱湯が出るような状況です。保育室の壁の塗装も剥がれています。それから雨漏りです。台風でなくても、前回の雨で何か所も水が入ってきますので、タオルを敷いて、バケツを置いてという状態の第四幼稚園です。用務さんがベニヤが剥がれてひどいので修繕してくれている状況の中、第四幼稚園で大きな地震が来た時に子どもたちを守れるかと思うと、正直不安が残ります。そういうような園の中で子供たちを一生懸命育てているということは、財政面が厳しいことは承知していますが、少しでもわかっていたきたくて今日発言をさせていただきました。

【会長】

事務局に伺いますが、資料1-3の公共施設等の総合管理計画については、市議会を通ったものですか。

【事務局】

こちらの計画は市として策定したものです。

【会長】

ということは、この計画に則ってということですか。

【事務局】

基本的な考え方については、建物の古さだけではなくて、今後も少子高齢化が進んでいきますので、税金があまり伸びてなくて支出が増えているという話があったんですけども、全体の収支のシミュレーションをした結果、建物をコンパクトにしないと持続可能性がないという視点で作られたものになります。

【会長】

改めまして、追加資料について意見をいただけたらと思います。

【委員】

資料1-3で、第二、第四、第七幼稚園の築年数が書かれていますが、耐震補強はされていますか。

【事務局】

昭和56年を境に、新しい基準になっていますので、それより後であれば耐震補強はいらぬ新しい耐震基準でできている建物になります。第四幼稚園は昭和48年ということで、

古い耐震基準でできている建物なので、耐震診断をしないと耐震性能があるかどうか判断できておりません。

【委員】

第四幼稚園にはついては、診断をして耐震補強をするということですか。してあるということですか。全然手がついていないということですか。

【事務局】

今のところ、耐震診断が行われていないという状況です。

【委員】

耐震補強の予定はありますか。

【事務局】

今のところ、いつ診断をするかの計画はないです。全体的に、建物自体が古いので、補強したほうがいいのか、建て替えたほうがいいのかという議論もありますし、今回の検討委員会の議論の中での将来的にそれぞれの園をどうしていくのかというところもあるので、最終的な結果を踏まえての問題にはなりますが、今第四幼稚園をいつどうするというものはないです。

【委員】

資料2の市立幼稚園のコスト計算のところの①管理運営費のところですが、平成29年度と令和元年度のところで額が下がって戻っているのはどのような経緯があったのでしょうか。

【事務局】

この年度に園の統廃合を行っておりますので、この影響と想定しておりますが、明細までは確認できておりませんので、調べまして皆様にメール等でお答えさせていただきます。

【委員】

エールに相談して「きぼう」に通所しているお子さんは、通常私立幼稚園なり公立幼稚園なりに籍を置いていて、通所しているところが「きぼう」ですか。

【事務局】

エールの中のいくつかに通われているお子さんがいます。相談されている方、児童福祉法に基づく「きぼう」に通所されている方、委員からも少しお話ありましたが、エールに平行

して通われている、保育園や幼稚園に通いながら、別に午後からエールに通われてるクラスもあります。

【委員】

いわゆる療育通所ということでしょうか。

【事務局】

そうです。午後クラスの主な在籍先は保育園や幼稚園になりますが、療育が必要なお子さんについては、専属でエールの児童指導員の下で療育活動を行って、クラスに通われているお子さんもいらっしゃいます。

【委員】

小学校は、拠点校ありきの巡回式のステップ教室がありますが、学齢前だと通所することが保護者にとって負担になるということはないのでしょうか。

【事務局】

エールに通うことへの負担感ということでしょうか。

【委員】

そうです。エールは1箇所じゃないですか。定員に対しての教室数があると思うんですけど、定員割れしている状態で空き教室があるのではないかと思います。ステップ教室のように指導する方達が巡回することで、より自宅に近いところで療育が受けられるんじゃないかと思います。聞いてみました。

【事務局】

エールについては、旭が丘の端にありまして、道一本挟むと八王子という立地にあります。負担感という意味を広くとらえると2点あるかと思います。1つは療育施設に対して相談するということに対して精神的にハードルを感じる方、もう1つは地域的に通いづらい、特に公共交通機関はバスが一番近いところではありますが、エールが一番近いバス停では20分に1本というところが実情です。豊田駅からだと大人で徒歩25分程度とかかることから、大多数の方が車で通われています。その中で、エールは7年目を迎えますが、委員からご発言があった通り、サテライトのような、東側の地域にも相談施設がないかご要望をいただいているのが実情です。

それから負担感の話からすると、エールのほうから赴いていく方法があるんじゃないかという視点でのご質問をいただきました。その点では、保育カウンセラーの話が出ましたが、エールでも巡回相談を行ってしまっていて、大学に所属する教授、准教授や臨床心理士の資格を

持った職員が、巡回して公立私立の幼稚園保育園を回っています。また、昨年10月だったと認識していますが、保育所等訪問という新しいサービスを開始しまして、エールに所属する職員が園に赴きまして、子どもに対する個別の指導や療育のスキルを園と情報交換して対応しているということがございますので、少なからず相談者が直接訪問するだけではなく、巡回型のしくみもあるということでエールは支援を行っています。

【委員】

今幼児人口の減少だとか、財政状況を数字として見せていただいて、片やで市の有形だったり無形だったりする財産だったりとか、かしのきシートを基にしている幼小中高の連携の中で見ると、公教育の幼稚園が果たしている役割はとて大きいと思います。幼児人口が減っていて、分母を増やさなければならないという意味でいうと、先程のお話の中でもありましたが、日野市の特別支援教育をはじめとする教育の充実を聞きつけて日野市に居を構えようと思われる方だとか、他市が次々と幼稚園がなくなって行って、日野市がやっていると注目が集まって、どうやって維持管理しているのかとなったときに、日野市の強みになるんじゃないかと考えています。共存しつつ、一見競争関係にあるような私立幼稚園でも公立幼稚園の意義というものを、A委員から教えて頂いたところもあったので、市の財政が悪くからなくしていいというものではなく、市の財産として今後も考えていかなければいけないと思います。補完としてスタートしたとしても、今は意義が違うというところはあるんですが、3園という数が適正な数なのか、施設の老朽化など、お金がなくてサービスが低下したり、施設が悪くなることによって子どもの安心安全がなくなってしまうと、本末転倒になってしまうと思いますので、ある程度人材や予算を集中させることは長期的に考えなければいけないなと思っています。ただ、幼稚園というのがとても日野市の財産であり、売りの一つで大きなものなんだなというのがあるので、そこで果たしていく役割っていうのをたくさんアピールする、知っていただくことは大事かなと思いました。

【会長】

今委員からお話があった通り、「共存と競争」相対するようなものが、高い次元で融合できるような、そんなところが市立と私立のいい意味での棲み分けになるのかなと思いがら聞いていました。また、3園が適正なのかということも、自分の財布として考えたときに、そこについては考えていかなければいけないのかなとも感じたところです。

【委員】

公立幼稚園の特別支援というところで、考えることはまだまだできるのではないかなと思ったところなのですが、今第四幼稚園では、四小と関係性もとても近いので、小学校で気持ちは落ち着かないお子さんを校長先生、副校長先生が連れてきてくれて、園児と関わったり、気分転換して小学校に戻っていくとか、色々なことができるよねと校長先生副校長先生

とお話をさせていただいています。公立幼稚園ができる役割はまだあるのかなと思います。

【会長】

扉一枚でつながっているこの関係性はすごくいいなと思います。物理的な距離感が大事なかなと思います。第四小学校の人数はどれくらいを推移していますか？また空き教室がどれくらいありますか？今後公教育を考えていく場合は、学校が地域の拠点となる、そこには幼稚園も小学校も中学校も、地域の方も集うようなコミュニティの拠点となるような在り方が今検討され始めています。私立ですが、日野市が教員を派遣している風越学園は、幼小中一体となって、地域のコミュニティの場を提供しつつ、まとめようとしているところです。資料1-3を見てしまうと、第四幼稚園は廃止しなければならないように何となく見えてしまうのですが、第四小学校の中に第四幼稚園を置けるなら、違った見え方ができるのかなという感じがします。

私がお邪魔している学校で、小学校低学年と高学年でグラウンドを分けているところがあります。というのは、6年生が全力でドッジボールやサッカーができて、かつ低学年の遊びの場も提供できるということで、第四幼稚園の園庭がちびっこ用に活用できるのであれば悪い話ではないと思います。同じことが平山小にも言えるし、旭が丘小にも言えるのかなと思いますので、今ある幼稚園の園舎をガラガラポンすることによって、違った見え方になり、少なくとも園舎を建て替える予算は不要になると思います。そういったこともひっくるめての検討委員会かなと思われまので、私たちだけの答えを作れたらいいと思います。

【委員】

小学校としては、来てくれるなら幼稚園もまとめてほしいと思います。建て替える順番になっているけども補助が整わない状況で、建て替えるときにはどこか幼稚園と一緒に建物にして、地域のコミュニティになるような建物を作ってくれるとうれしいし夢が膨らみます。小中連携の学校はいっぱいあるけども、幼小連携はあまりないので、幼稚園と小学校が一つの建物に入っていたら面白いなと思います。

【会長】

私も川口市で教育委員をやっているんですけども、次建て替えると学校は、絶対そうしようという意見をさせていただいています。幼稚園を建て替えるよりも、小学校を建て替えるタイミングのほうがチャンスなんですよね。老朽化とか、何かチャンスでどうしてもやらざるをえないというところが出てくると思いますので、私の地域では、小学校の統廃合を考える際に、という形で、十数年後をめどに検討しているところでもあります。中長期的なビジョンを含めて、検討委員会の答申として書けるかどうか、そういうことも踏まえて検討できたらいいのかなと思います。

【委員】

建物の話は、私立は自分たちで建てるしかないの、計画して20年、30年ローンで返していきます。以前は東京都から多少の補助があったのですが、今は耐震補強の補助とアスベストの補助になってしまい、建物の補助はゼロです。だから市から補助が少しでも出るとありがたいと思います。保育園は全く違い、文科省と厚労省の違いもありますが、保育園はとても立派な建物がどんどんできています。公立、私立にかかわらず、費用負担はほとんどないんです。私立幼稚園の場合は10割負担、そういう違いがあります。子供省を作ると、保育園の補助が減って幼稚園の補助が増えるので必ず反対が出ますので一つにならない。

【副会長】

難しい話ばかりで、数字が出てくるとどう考えたらいいかという所がありますが、ただ、数字の話も含めて、公教育としての役割、幼稚園という部分で日野市の教育をどう考えるかをしっかり考えることは必要だと思いました。保育園、幼稚園色々な話が出ていますが、小学校は幼稚園保育園、公立私立どこからも来ますし第三次教育基本構想にもあるように、「子供達が自分で育っていくこと、みんなで育っていく」を掲げているということが、実現されていく教育って何だろうと思うと、公立私立のそれぞれの良さを考える。新しい幼稚園要領で「地域に開かれた」というのが一つキーワードになっているので、どう実現していくのか、地域の子供達を育てていくのかを日野市の幼児教育施設のベースとしての役割を果たせる施設であってほしいと思いました。

コストの面で考えたときに、コストと質や役割のバランスを探して、園を減らさなければいけないことになれば、機能や質は維持される、プラスの機能を持たせる等のお金はちゃんとつけてほしいと思います。私立と公立が小学校の力も借りながら一緒に研修等できれば、双方が充実していけるといいますし、幼稚園が日野市の教育の土台になって、必要なコストには補助をかけられるといいと思いました。

【会長】

選択と集中をお話いただきました。全部はできないことは見えてきたので、ある程度選択はする。コストと質の両立の部分で頃のいい所を考えていくことを次回のポイントにしたいとしよう。絶対に忘れてはいけないのは、公教育の意義、日野市の幼児教育の良さ、このあたりは忘れずにということを踏まえて、次回3回目については、市立幼稚園の適正配置について、答申を意識しながら検討していきたいと思います。それでは閉会に移りたいと覆いますが、最後に事務局から事務連絡をお願いします。

【事務局】

次回の日程のお知らせです。次回の日程は9月21日(火)午後6:30からを予定しています。場所は市役所5階506会議室です。開催日近くになりましたら、通知文を送付いた

しますので、日時、場所などあらためてご確認をお願いいたします。また本日第2回目までの配布の資料につきましてはお手数となりますが、次回お持ちいただければと思います。以上です。

【会長】

他になれば。以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。お疲れ様でした。